2023_0621「ヤマナシの実（写真)」日々の理科 3241 号

・

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所
田中　千尋

６年生の国語の教科書に「やまなし」という物語が載っています。宮沢賢治の短編児童文学の一つです。なかなか難解な内容で、指導が難しい題材の一つのようです。「やまなし」は「ヤマナシ」という植物の実のことで、実際にこの物語の中にも登場します。青果店やスーパーで売っているナシよりもずっと小さく、木になっていても、よほど注意深く見ないと気づかないほどです。先日、そのヤマナシの実を久しぶりに見つけました。直径 2cm ほどの青い果実で、割ってみると、すでに小さな種子もできていました。少しかじってみると、渋みと酸味があるものの、確かにナシの香りがしました。

私が強く興味を持ったのは、なぜこんな貧弱で目立たない果実を、なぜ賢治が作品に登場させ、作品名にまで採用したのか、という点です。実は私は一つの解を持っています。賢治の学友に保坂嘉内（ほさかかない）という人物がいて、さまざまな作品に影響を与えたことは疑いありません。賢治は嘉内に対しで特別な感情を抱いていたことも、多くの葉書や書簡で明らかになっています。その嘉内の出身地が「山梨県」だったのです。それで「やまなし」という題材を選んだのだと、私は考えています。